

地元・熊本から、全国、世界へ。

LOVEMINTON

ラブミントン

2015 Summer vol.02

学生実業団選手権
第65回 全日本実業団バドミントン選手権大会

新チームとして、初の団体戦

「第65回全日本実業団大会」特集!!

再春館製薬所 バドミントンチーム、準優勝!!



再春館製薬所のチームとして、初めての団体戦に密着! 「第65回全日本実業団大会」、準優勝!!

たくさんの声援、そして、収穫と反省一。



7月1日(水)~5日(日)、「島津アリーナ京都」をメイン会場に開催された、第65回全日本実業団大会(※大会概要はP.4も参照)。今年4月に再春館製薬所のバドミントンチームとして新たなスタートを切り、初めてチーム単位で戦う団体戦でしたが、キャプテンの垣谷令佳の故障により、「マエカキ」ペアが欠場という事態に。それでも、チームは前向きに善戦し、西川通子会長を筆頭とする大応援団の声援を糧に、準優勝を飾りました。

同大会には全国から女子44チーム、男子173チームが集結。各試合は5本(ダブルス×2、シングルス×3)あり、先に3本を制したチームが勝ち進むトーナメント方式で、女子と男子の試合が同時進行で行われます。

「相手は向かってくるけど、大丈夫やから。しっかりやればいい」。初戦を迎える直前、今井監督が選手にかけたシンプルな言葉には、すべてが凝縮されていました。メイン会場に併設の練習用サブアリーナでウォーミングアップをする選手たちの表情も、多少の緊張感はあるながら、気負いはありません。今井監督が「大丈夫やから」と背中を押すだけの準備は整えて臨んだ、国内では二つしかない団体戦の一大会でした。

前回大会の準優勝によりシード権を得ていた再春館製薬所 バドミントンチーム(以下、再春館チーム)の登場は3日(金)の2回戦からで、初戦の相手は広島ガス。試合前の円陣では福万尚子の元気な掛け声、「心ひとつに、勝つぞー!」が響き渡ります。観覧席には西川通子会長をはじめ、日頃から再春館製薬所がお世話になっている、原料や資材、メディア等の協力会社の皆様も多数応援に駆け付けてくださり、スティックバルーンを振るっての大声援は、コートの上にもしっかりと届き、大きな力となつたに違いありません。

再春館チームはエースの福田美穂・垣谷令佳の欠場、仲井由希乃は社会人になって初めての団体戦と、苦しい台所事情。広島ガス戦に勝利し、翌日の山陰合同銀行との一戦では、今シーズンよりコーチ兼選手を務める末綱聡子が福万尚子とペアを組んで強行出場。末綱の公式戦出場は、団体戦では約2年ぶりのことでした。序盤は即席の末綱・福万ペアの意が合わず、苦戦するも持ち直し、最終的には末綱のスマッシュが試合を決めます。ペアを組んだ福万は、最初は遠慮があったと言うものの、五輪にも出場した偉大な先輩にリードされ、「末綱先輩と組んで、あらためて器の大きさを感じました。(本来のパートナー)と興猶と組んだときは、自分が器を大きくしなくてはならない。技術以上にメンタルの強さ、重要さを再認識しました。



ゲーム後に笑顔でハイタッチを交わす福島・廣田(左)。今大会、すべてのゲームに勝利した2人は敢闘賞を受賞(右)

大会はベスト4入りが確実視されていたNTT東日本が準々決勝で敗退、再春館チームも、伊東の調子が上がり切らないなど、一発勝負のトーナメント戦ならではの、さまざまなドラマが展開されました。そんな中でも「根性で(今井監督)勝ち進み、決勝の相手は世界ランク1位の高橋礼華・松友美佐紀ペアを擁する日本ユニシス。シングルスにも世界ランク日本人最上位(大会時9位)の奥原希望が在籍する強豪に、奮闘するもトータル3対1で敗戦。再春館製薬所として臨んだ初めての団体戦は、準優勝という結果で幕を下ろしました。

決勝の5日(日)は、西川通子会長のバースデー。監督、選手たちは、「優勝をプレゼントにしよう」を合言葉にしていただけに、準優勝にも喜びの言葉は出てきません。ただ、チームには次があります。「バドミントンはこれからも続く。今回の結果をどうするかは自分次第。チームとしては次の日本リーグで絶対リベンジしよう(今井監督)」。

再春館製薬所の本社では、コーチから送られてくる速報メールや、試合のライブ配信で「同僚」の京都での戦いを見守り続けました。社員たちはシブアナスポーツの世界を体感しながらも、選手たちが体現してくれた「あきらめない気持ち」に、感動と勇気をもたらしたことでしよう。再春館チームの目指す、「愛されるチーム」に近づくために、選手、社員が一枚岩となる戦いは、これからも続きます。

西川会長も連日、観覧席の最前列から大声援。「粘ってー!」リーチよ、リーチ!」「大丈夫ー!」



チーム事情から、末綱が選手として登場。「自分が出場を決めて、勝利するところはさすが(今井監督)」

まさかの相手に星を落とすと、初戦は苦しんだ伊東。一方で準々決勝では北都銀行のエースを破るなど、執念も見せた



決勝で日本ユニシスの世界ランク1位ペアと対戦した福万・興猶。福万はムーデーメーカーとしてもチームを盛り上げる

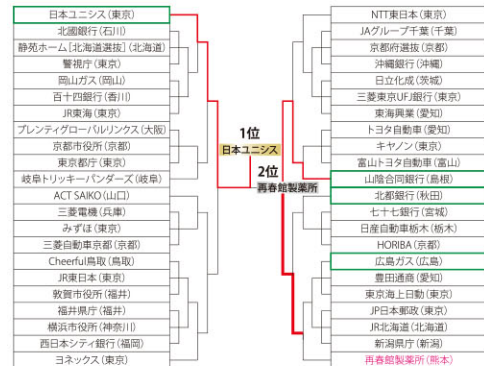


再春館製薬所の名前が入った真っ赤なスティックバルーンが目立つ観覧席。たくさんの協力会社の皆様に応援に



「たくさんの声援があって、リラックスできた」と語る峰。持ち味の粘り強いプレーを随所に発揮し奮闘

●トーナメント表[女子]



●2015年度大会総合順位[女子]

優勝	準優勝	3位
日本ユニシス(東京)	再春館製薬所(熊本)	ヨネックス(東京) 山陰合同銀行(鳥根)

個人賞：奥原希望(日本ユニシス)
(最優秀選手賞)
敢闘賞：福島由紀/廣田彩花(再春館製薬所)

●今大会戦績

2回戦:再春館 3-1 広島ガス

【第1ダブルス】☆(福島・廣田)
初戦といことも少し硬さが見え、8-11でリードされインターバル。中盤から持ち前のスピードある攻撃で相手のミスを読み、21-18で逆転で先取。2ゲーム目は福島・廣田の攻撃が冴え、序盤から大量リード、21-8で勝利。

【第2ダブルス】☆(福万・興猶)
序盤はリードされるも、福万の前衛での決定力が冴え渡り、21-10で先取。2ゲーム目は終盤まで膠着も、最後は1ゲーム目と同様、福万の前衛でのプレーが冴え21-17で勝利。

【第1シングルス】★(伊東)
高校を卒業したばかりの濱北選手の粘り強いプレーに大苦戦。1ゲーム目は21-19で何とか奪うが、2ゲーム目は23-25、ファイナルは17-21で奪われ、まさかの敗戦。

【第2シングルス】★(峰)
1ゲーム目は峰の粘り強いプレーに相手にミスを連発。21-11で奪う。2ゲーム目は左利きの相手の独特な配球に苦しみ、中盤までリードを許すが、終盤に追いつき21-18で勝利。

準々決勝:再春館 3-1 北都銀行

【第1ダブルス】☆(福島・廣田)
序盤からスピードある攻撃で相手を圧倒、1ゲーム目は21-10で奪う。2ゲーム目も攻撃の手を緩まず、21-3で圧勝。

【第2ダブルス】★(福万・興猶)
若い長身ペアの攻撃を守りきれず、序盤からリードを許す。中盤から終盤にかけて相手にミスが出て、18-18に追いつきが、1ゲーム目は19-21で落とす。2ゲーム目も同様の展開で序盤はリードを許すが、中盤の連続得点で逆転。そのまま逃げ切り21-18で取り返す。

【第1シングルス】★(峰)
ファイナルは前半の大量失点が響き、11-21で敗退。

【第2シングルス】★(伊東)
5月のランキングサーキットで3位入賞の伸び盛りの高卒2年目の選手を相手に、1、2ゲームとも危ない余裕の試合運びで21-9、21-10で勝利。

【第2シングルス】★(峰)
北都銀行のエースと対戦。1ゲーム目は伊東の簡単なミスが続き9点で落とす。2ゲーム目も同じ展開でリードを許すが、中盤から勝利を意識し始めたのが、逆に相手にミスが目立ち始め、18-18に追いつき21-19で逆転で奪う。ファイナルは伊東のスマッシュやレシーブが冴え、1ゲームと逆の展開になり、21-14で勝利。

準決勝:再春館 3-0 山陰合同銀行

【第1ダブルス】☆(福島・廣田)
1ゲーム目は終始、福島・廣田ペアのペースで21-8で簡単に奪う。2ゲーム目は逆の展開で11-21で落とす。ファイナルは集中力を上げ、一気に突き放して21-12で勝利。

【第2ダブルス】★(末綱・福万)
大ベテランの末綱が福万と組んで登場。1ゲーム目は急造ペアのためか、なかなか噛み合わず、17-21で落とす。2ゲーム目は末綱が鋭速のレシーブと多彩なショット、気迫あふれるプレーで福万を引っ張り、21-13、21-10で逆転勝利。

【第1シングルス】★(峰)
相手が攻撃し、峰が守るといった展開で、長いラリーの応酬となつたが、徐々に相手が我慢できなくなり21-17で先取。2ゲーム目も同様の展開となつたが中盤から峰が引き離し、そのまま逃げ切り21-15で勝利。

決勝:再春館 1-3 日本ユニシス

【第1ダブルス】★(福万・興猶)
世界ランキング1位の高橋・松友ペアと対戦。実力の差を見せつけられ、ラリーは続くものの攻撃しきれず、守りきれず、12-21、12-21で敗退。

【第2ダブルス】☆(福島・廣田)
お互いスピードのある低いラリーが得意なペアで、ゲームも速いラリーの展開となり、第1ゲーム目はユシスペア、2ゲーム目は再春館ペアが勝利。ファイナルは再春館ペアが2ゲーム目を取った時点で序盤から一気にリードし、21-11で勝利。

【第1シングルス】★(伊東)
世界ランク日本人最上位(大会時9位)の奥原と対戦。1ゲーム目は一方的な展開で12-21で敗戦。2ゲーム目は序盤から膠着も、21-14で奪い返す。伊東のパワーあるショット、ディフェンス力、奥原の巧みな配球とミスのないプレーといった、それぞれの持ち味が出たファイナルは大熱戦となり最後は20-22で敗戦。

【第2シングルス】★(峰)
後のない状況で、ナショナルA代表、長身の攻撃的サウスポードと対戦。圧倒的な攻撃力の前に、粘り強いレシーブで対抗するが、相手が一枚上手で、18-21と14-21で敗退。



決勝の翌日、チーム全員で本社挨拶。準優勝の報告を社員みんなで迎え、「お疲れさまでした!」

「勝ちたい」という気持ち、「感謝」の気持ちは奇跡を起こす 社会人一年生・仲井由希乃から見た実業団大会



出場はなかったものの、チームに帯同し、多くを吸収した仲井。貴重な今回の経験を次に生かす

社会人になって、初めてのチーム対抗戦に同行し、今回は試合出場はありませんでしたが、学生時代との大きな差を実感しました。まず試合で驚いたのが、ラリーの長さ。上の選手になるほど、簡単なミスがなく、ラリーが長かった。そんな中でも峰先輩の粘りは、今回の出場選手の中でも一番だったのではないのでしょうか。

ベンチの応援の熱さも、これまで経験した以上のもの。出場選手も、チームのために「勝ちたい!」と思ったり、支えてくださる方々への「感謝」を勝たりたい!と、強い相手にも勝てるということを目の当たりにしました。私自身、守備力や球の正確性をもっともっと磨かなければ、上では通用しないと感じました。もっともっと、練習します!!



メンバー紹介

<DATA> ※2015年7月1日現在
①生年月日 ②身長(cm) ③出身
④経歴 ⑤趣味 ⑥バドミントンの魅力
⑦得意なプレー ⑧プレーする上で大切にしたいこと

STAFF

監督

今井 彰宏 AKIHIRO IMAI
①1970/1/14 ②180 ③福井県勝山市
④勝山高校-大阪経済大学-NTT関西-トナミ運輸-ルネサス
⑤映画鑑賞 ⑥人生に精通しているところ ⑦ブッシュ
⑧簡単なミスをしな

コーチ

吉富 桂子 KEIKO YOSHITOMI
①1975/4/8 ②167 ③福岡県福岡市 ④精華女子高-
四條崎学園女子短期大学-吉松歯科-ルネサス
⑤温泉、マッサージ ⑥試合を重ねることにより人間的にも成長
できること ⑦ディフェンス ⑧努力した分だけの幸運

コーチ

池田 雄一 YUICHI IKEDA
①1984/6/7 ②172 ③福岡県遠賀郡
④関東第一高校-ヨネックス-日本ユニシス
⑤スポーツ観戦 ⑥スピード感 ⑦ヘアピン
⑧相手を観察する

コーチ兼選手

末綱 聡子 SATOKO SUETSUNA
①1981/1/30 ②168 ③大分県大分市
④昭和女子高-ルネサス ⑤お風呂にゆっくり浸かること
⑥相手との駆け引き (精神的な部分や相手とのショットの
読み合い) ⑦レシーブ ⑧相手よりも先にミスをしな

マネージャー

本田 和裕 KAZUHIRO HONDA
①1972/10/23 ②172 ③熊本県玉名市 ④熊本商科
大学付属高-早稲田大学-トナミ運輸-ジャコル-ルネサス
⑤読書 ⑥思い通りにいかないところ ⑦スマッシュ
⑧集中力

トレーナー

岩村 修 OSAMU IWAMURA
①1969/5/16 ②177 ③熊本県蒲池郡
④東海第二高-東洋鍼灸学校
⑤温泉
⑥ケアのときの会話を選手の成長が感じられること

PLAYER

1

福島 由紀
YUKI FUKUSHIMA
①1993/5/6 ②164
③熊本県八代市
④青森山田高-ルネサス
⑤ショッピンング
⑥駆け引き
⑦粘る
⑧我慢

2

峰 歩美
AYUMI MINE
①1992/7/15 ②152
③愛知県刈谷市
④愛知県岡崎城西高-ルネサス
⑤本を読むこと
⑥スピード感
⑦粘って相手を嫌にさせること
⑧勝ちたい気持ち

3

伊東 可奈
KANA ITO
①1985/9/15 ②165
③石川県金沢市
④金沢向陽高-日本体育大学-
ヨネックス-ルネサス
⑤DVD鑑賞
⑥相手の裏をかくこと
⑦粘りからの
パワースマッシュ
⑧バドミントンができることへの
感謝と大好きな気持ち

4

福万 尚子
NAOKO FUKUMAN
①1992/3/3 ②157
③大阪府大阪市
④大阪府樟蔭東高-
パナソニック-ルネサス
⑤ショッピンングからの
カフェランチ
⑥対人競技ならではの駆け引き
⑦ガッツ溢れるプレー
⑧感謝の気持ちを持ちながら、
何事にも挑戦し続けること

5

仲井 由希乃
YUKINO NAKAI
①1996/5/20 ②165
③東京都練馬区
④日本橋女子学園高
⑤絵を描くこと
⑥相手との駆け引き
⑦ネット前で相手を崩して
攻撃を展開するプレー
⑧感謝の気持ちと追求心

8

垣岩 令佳
REIKA KAKIWA
①1989/7/19 ②166
③滋賀県大津市
④青森山田高-ルネサス
⑤温泉、カラオケ、ボーリング
⑥相手との駆け引き
⑦ジャンピングスマッシュ
⑧頭は冷静、気持ちは熱く、
笑顔で楽しく

10

前田 美順
MIYUKI MAEDA
①1985/10/14 ②169
③鹿児島県霧島市
④熊本中央高-ルネサス
⑤ショッピンング
⑥誰でも楽しめる
⑦パワープレー
⑧あきらめない

11

與猶 くるみ
KURUMI YONAO
①1992/12/1 ②167
③愛知県豊田市
④愛知県岡崎城西高-
パナソニック-ルネサス
⑤ショッピンング、岩盤浴
⑥プレーに性格が出るところ
⑦攻撃
⑧周りへの感謝の気持ち

12

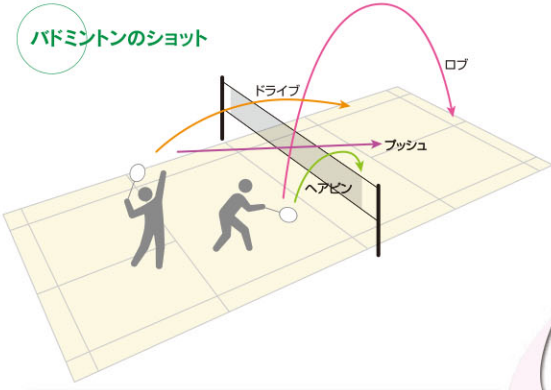
廣田 彩花
SAYAKA HIROTA
①1994/8/1 ②170
③熊本県玉名郡
④玉名女子高-ルネサス
⑤音楽鑑賞
⑥相手との駆け引き
⑦ネット前に詰める
⑧最後まであきらめない

基礎知識

RULES

どんな打ち方(ショット)があるの？

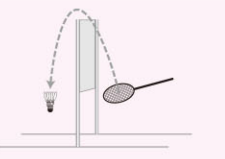
バドミントンはネットという障害物を挟んで対戦する競技です。相手コートにシャトル(羽根)を打ち返すときは、基本的には強いショットがメインですが、試合の中では相手の駆け引きにより、さまざまなショットが展開されています。



- ロブ**
ネットの手前から、相手コート奥に高く返すショット。滞空時間が長くなるので、追い込まれた際に、自身の体勢を立て直すときに放つことも。
- ドライブ**
床と水平に打ち出すショット。相手のボディに打ったり、左右に打って、相手のバランスを崩したいときに。
- ブッシュ**
ネットの手前から、相手コートに、鋭角に早く強い球を打つショット。
- ヘアピン**
ネット際から、相手コートのネットのギリギリ手前に"落とす"ショットで、相手を前後に揺さぶってミス誘い、ラリーを優位に進めるテクニックです(下段コラム参照)。

「ヘアピン」は、相手がネット際に落としたシャトル(羽根)を、逆にネット際すれすれにスピードを抑えて落とします。シャトルを"打つ"というよりも、ラケットで"押し出す"といった感覚が近いかもしれません。非常に精度が求められ、ネットよりも高い位置にシャトルが浮いてしまうと、その分、相手にとっては打ち返しやす、チャンス球になってしまいます。

試合で主導権を握るには、相手に高い軌道のシャトル(羽根)を打たせること。軌道が高くならシャトルの滞空時間が長くなれば、こちらは次に打ち返すワザを考える余裕ができます。「ヘアピン」は相手にシャトルを高く打たせることで、勝利への流れをつかめる、レベルの高いワザです。



SCHEDULE

「全日本実業団バドミントン選手権大会」と「日本リーグ」

バドミントンの社会人選手による、チーム対抗戦となる団体戦の国内大会は、毎年夏に開催される「全日本実業団バドミントン選手権大会」と、秋から冬にかけて開催される「日本リーグ(1部・2部・チャレンジリーグ)」の2大会のみ。エースの存在だけではなく、チームの総合力(選手層の厚さ)が勝利を左右します。

全日本実業団バドミントン選手権大会

【今年は2015年7月1日(水)～5日(日)】

国内のトップ選手と一般の選手が同じコートに立って試合ができる団体戦で、今年「島津アリーナ京都」をメイン会場に開催されました。全国から男女あわせて200チーム前後が集結し、トーナメント戦により、チームの日本一を目指します。男女ともに5本マッチ(第1ダブルス→第2ダブルス→第1シングルス→第2ダブルス→第3シングルス)の順で行われ、先に3本を制したチームが勝利となります。

1人の選手がダブルスとシングルスを兼ねての出場が可能。女子団体に限り、都道府県の選抜編成チームの出場を1チームまで認められています(2015年は京都府選抜と北海道選抜チームが出場)。

●2014年度大会実績【女子】

優勝	準優勝	3位
日本ユニシス(東京)	ルネサス(熊本) ※現、再春製薬所	NTT東日本(東京) ヨネックス(東京)

個人賞：高橋沙也加(日本ユニシス)
(最優秀選手賞)
敢闘賞：伊東可奈(ルネサス)
※現、再春製薬所
●2015年度の実績はP2参照

日本リーグ

【今年は2015年10月31日(土)～2016年2月14日(日)】

※熊本大会は2016年1月30日(土)・31日(日)

国内バドミントンの実業団チーム、クラブチームの対抗リーグ戦で、3ヶ月以上もの長い期間をかけ、全国各地で試合が行われます。各チームは期間中、合計7試合を戦い、順位は勝ち点(勝利1点、敗北0点、棄権または没収試合で-1点)で決まります。試合は3試合(第1ダブルス→第1シングルス→第2ダブルス)で、先に2試合を制したチームが勝利となります。1人の選手がシングルスとダブルスを兼ねて出場することはできません。翌年度に入社する選手が「内定選手」として出場することも可能で、主将の垣岩選手がNEC(ルネサス)入社前に、内定選手として高校3年生で出場し、その試合に勝利した経験があります。

●2014年度大会実績【女子】

優勝	準優勝	3位
NTT東日本(東京)	日本ユニシス(東京)	ルネサス(熊本) ※現、再春製薬所

最殊殊選手賞：三谷美津流(NTT東日本)
殊殊選手賞：新玉美穂/渡邊あかね(NTT東日本)
高橋礼華/松友美佳紀(日本ユニシス)
敢闘選手賞：福島由紀/廣田彩花(ルネサス)※現、再春製薬所
今別府香里(ヨネックス)
新人選手賞：櫻本鈴子(ヨネックス)・永原和可那(北都銀行)
松本麻佑(北都銀行)

インタビュー



本田 和裕
Kazuhiko Honda

峰 歩美
Ayumi Mine

伊東 可奈
Kana Ito

今年4月から再春館製菓所の社員になったバドミントンチームの社員たち。実業団大会が終わった直後、シングルスで活躍した伊東可奈、峰歩美、以前まではコーチとして彼女たちの指導をしていた本田マネージャーにインタビュー。
(取材日:2015年7月9日)

シングルスの方が好き。でも、ときどきダブルスも羨ましい。

一本日はシングルスで活躍している伊東さん、峰さん。学生時代はシングルスで名を馳せた本田さんの対談ということで、まずはシングルスを始めたいきっかけを教えてください。

峰: バドミントン経験者はみんな、小学校、中学校、高校時代はシングルスもダブルスも両方やるんです。私も実際、両方やっていて、小学校からずっと興道(くるみ)とペアを組んでいました。シングルスに絞ったきっかけは高校時代、ある全国大会で「あれあれ!」っていう間に優勝してしまった(笑)、それからです。もともと、シングルスの方が好きでしたし。

伊東: そう、峰は自己中心のだから、一人でやった方がいい(笑)。
峰: 正直なところ、シングルスに専念したいなと思い始めていたので、シングルスに絞っていききました。

伊東: 私も元々は両方やってたんですけど、ルネサスに入ってから、気がついたらシングルスになっていました。本田さん、私がシングルスになった理由は?

本田: 一番は適性ですね。あと、シングルス、ダブルス、それぞれの実績を見るの判断ですよ。

伊東: シングルスはミスをしたら自分の責任、点を取ったら自分の力。良いときも悪いときも、自分を追い込めるので、私もシングルスの方が好きです。

峰: ダブルスはペアで何度も話し合ったり、プレーを確認し合ったり、大変そうだなと思う一方で、試合に勝ったときは二人で喜び合えるので嬉しさも二倍。羨ましいと思うときもあります(笑)。本田さんは学生時代、シングルの「アスリート」だったんですよね?

本田: アスリート?
伊東: 「エリート」って、言いたいんじゃない?
峰: そうです(笑)。
伊東: 本田さんの栄光は詳しく知らないですけど、どうやら、すごい選手だったようです(笑)。

一プレーする人数以外で、シングルスとダブルスの違いは?
伊東: 本田さんから、どうぞ。
本田: 最近はお顔をうつ、頭もすぐ回らなくて……。伊東、頼むよ。

伊東: ダブルスは攻守の展開が速いのですが、シングルスは持久系で、ラリーが長い、長い。とくに女子はラリーが長くなりがちで、一点一点が重く感じる。試合を観ている方々も、長いラリーの後に点数が入るので、その都度、大きく沸いてくれたりするんですよ。そこもシングルの見どころのひとつかな、と思います。

峰: 私は粘るので……。他の選手よりラリーが長くなりやすい。ラリーが長いので、周りからの声援がすごくありがたくて、「負けてはいけない!」と、自分に言い聞かせながらプレーしています。

周りが見えるようになってきて、競技の成績も上がってきた。

一それぞれの、「素顔」を紹介していただきます。まずは本田さんについて。

本田: 褒めてくれよ。
伊東: マイペース。
峰: 猫背。
本田: 褒めてない(笑)。

伊東: いくつか冗談ばかり言っています。でも、全然面白くない(笑)。みんなそう思っているんですけど、本人は、「笑っていいんだぞ。面白いだろ?」と言い続けているという……。メンタルが強いんです。

峰: 私は不器用なので、いろいろなテクニックも習得するのに時間がかかると。コーチの中には認めて、「もういいよ!」、次のテクニックを勧めてくださいる方もいらっしゃるんですけど、本田さんだけは、ずーっと、辛抱強く付き合ってくれる。基本的なことから、優しく、小学生に教えるように、辛抱強く指導してくれるところは、私は本当に助かっています。

一峰さんについて。
伊東: エアゾックみたいな体型です。
峰: そこ?
伊東: よく食べますもん。

峰: うちのチームはみんな、よく食べるんですけど、体質的に、贅肉がつきやすいか、つきにくいかで……。
一好きな食べ物は?
峰: 甘いものです。
伊東: だから太るんだったら(笑)。でも……。峰は不器用ですが、真面目な子。真面目だけ、ときどき抜けているところがあるので、みんなにいいられやすい。

一では、伊東さんについて。
峰: 明るい!
本田: カレーが好き。
伊東: カレー好きは関係ないやん(笑)。「しっかりしたお姉さん!」って言ってください。

峰: しっかりしていますけど、天然です。あと、サバサバしているんで、周りからは怖いって印象を持たれているかもしれない。

本田: 初めて会った頃は「適当な子だな!」って思っていました。
峰: うんうん。
伊東: 峰、頷いたな。

本田: 最近変わってきた一面が、後輩の指導をしたり、面倒を見たりするようになってきたところ。昔から遠征も、この三人で行くことが多かったのですが、自分のペースで過ごしていた。でも最近では後輩のために、という言動が増えてきた。周りが見えるようになってきたんでしょうね。そのせいか、競技の方も成績が上がってきた。

峰: その通りだと思います。
本田: まず自分、という考え方だと、試合でも、相手が見えなくなるものだから。



Talk & Talk

峰: 伊東先輩は地味に真面目ですね。頑張り屋さんです。垣岩先輩も真面目。

伊東: そうそう。(垣岩)令佳は暇さえあれば、いつも筋トレしてる。
本田: それは真面目というのか?(笑) 趣味では?

再春館のチームになって良かった。喜んでもらえるような試合がしたい。

一今後の目標は?

本田: 私は再春館に入ってマネージャーが本業になったので、チームのみんなが気持ちよくプレーできるように、試合に集中して臨めるように、という意識ですね。そこをもっと高めていきたい。「怒られないマネージャー!」になるのが目標です。また、ときどき体育館に行って練習を見てみると、コーチ時代のように見ているのとは違う視点で気がつくこともある。そういった形で選手にアドバイスができればとも思っています。ただ、二人への指導は、基本的には池田コーチに任せているので安心してます。

伊東: 私は再春館のチームになって、今まで以上に、「喜んでもらえるような試合がしたい」という気持ちが強くなりました。試合の後に会社に行くとき、社員みなさんが「元気が出たよ」、「嬉しかったね!」ですとか、本当にあたたかく声を掛けてくれる。嬉しいですね。

峰: 挨拶もそうだし、社員みなさんが笑顔で話しかけてくれる。再春館のチームになって良かったと、チームのみんなと話をしています。

伊東: (先日の)実業団大会も、社員みなさんであたたかく送り出してくださったので……。優勝できなくて、悔しい。日本リーグでは優勝したい!

峰: 日本リーグの熊本大会が楽しみです。二日間ありますね。
本田: 日本リーグは、各試合シングルス枠はひとつだけなので、この二人はチーム内でライバルになるんです(笑)。

峰: そうなんです。日本リーグの試合では、伊東先輩が私か、他の誰かか、とにかく毎試合、一人しか出場できません。

伊東: ただ、いつも一緒にいるので、ライバルだと意識することはないですよ。
峰: 私、チームに入ったばかりの頃は怖いもの知らずで、根拠のない自信を持っていました(笑)。だから、試合に出られないときは「なんで?!」と、いつも不満だったんですが、今は変わりました。監督やコーチは自分のことをよく見てくださっていて、そのときのコンディションや、チームの戦路で選手を決めているから、出られなくても仕方ない、と思うんです。出られないのは、悔しいですけどね。

伊東: 大人になったね。
本田: そういう負けず嫌いの気持ちも大事ですよな。

伊東: とにかく、実業団大会では、うちのチームはシングルスで貢献できなかったのが、日本リーグではシングルスで誰が出て、必ず勝ちたい。再春館製菓所のバドミントンチームは、ダブルスは他と比べても相当強いので、シングルスも負けてはられない。

一その目標を叶えるためには。
伊東: 練習です!
峰: 練習です!
一期待していますね。今日はありがとうございました。

今回対談した選手たち



伊東 可奈(いとう かな)
ジュニア時代からダブルス、シングルスとも全国大会上位常連。大学4年時はインカレシングルス、ダブルス2冠王。パワーあふれるショットが持ち味で、とくに良いラリーからの強烈なスマッシュは世界レベルの破壊力。チーム加入後はシングルスを中心に活動。主な成績は、2014USオープン準優勝、2015ベトナムに優勝、ランキングサーキット第3位。実業団の愛称「くーちゃん」にメロメロで、ケータイの待ち受け画像も「くーちゃん」とか。



峰 歩美(みね あゆみ)
ジュニア時代は興道とペアで活躍。高校1年の時に全日本ジュニア、シングルスで優勝し顔ぶれを現す。2年の時は同大会2冠王(パートナーは興道)。小柄ながら、抜群のスタミナとコートカバーリングでダブルゲームを勝ち抜く。主な成績は2013全日本社会人準優勝、2014全日本総合ベスト8、2015大阪国際第3位。趣味は漫画鑑賞で、好きな漫画は「ワンピース」。



本田 和裕(ほんだ かずひろ)
現役時代は、トナミ運輸(福山県)、シヤトコ(静岡県)で活躍。トナミ時代は今井監督とのペアで全日本総合準優勝、全日本社会人準優勝。32歳で現役引退後、NEC九州(マルネサス一現、再春館製菓所)バドミントンチームにコーチとして加入。今年からマネージャー職を務める。趣味は「子育て」で、家庭では男の子二人(中学2年生、小学校3年生)の良きパパだそう。



私たちは 熊本に 有六剣です。

私たちはいま、たくさんの方々に
支えられ、育まれています。
その思いを胸に、
ひたむきに、まっすぐに。
私たちは、熊本とともに生きます。



くまもと 再春館製薬所 バドミントンチーム

編集後記

再 春館製薬所のチームとしてスタートし、3ヶ月余りが経過しました。選手たちは練習の合間を縫って本社を訪ね、いろいろな部署の仕事を研修しながら、社員との交流も少しずつですが、重ねてきています。研修を終えた選手たちに聞くと、予想以上に大変だったのが、薬彩工場（製造工場）だったようで、「検品など、あらゆる工程に、これほどまで集中力が求められるとは思わなかった。再春館が商品の安心・安全にこだわっている理由が体感できた」。また、コールセンターでのアシスタント（スピナー）業務や「お客様満足室」での事例共有、「クリーン隊」としての早朝からの社内清掃など、「お手伝いしている仕事内容の裏にある、再春館の想いを吸収している」と、積極的に研修に励

む選手たちの姿に、既存の社員たちも日々の自分たちの役割の重要性を再認識しています。

創 刊二号目を迎えた『LOVE MINTON』。創刊号はおかげさまで好評をいただき、社員はじめ、協力会社の皆さま、4月に東京で開催したお披露目会にお越しいただいた皆さま、また、一部、熊本県内の皆さまにも配布し、たくさんの方々にチームに興味を持ってくださる一助になっています。チームと社員、地元・熊本と、応援して下さる全国の皆さまを紡いでいく冊子制作に努めて参りますので、今後も『LOVE MINTON』をご愛読いただき、ご意見、ご提案など、気軽にお寄せくだされば幸いです。

[LOVE MINTON 編集室（再春館製薬所 広報室内）]



再春館製薬所